

# 学びの風便り

リーディングスクール通信13 R5.11.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター

## 学びの改革のあゆみ 開智小学校・開成中学校

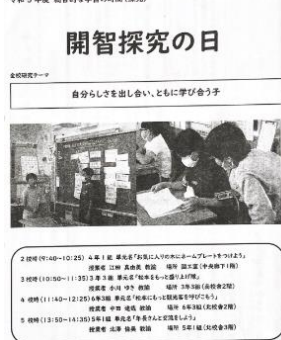
### 開智小学校 「探究の学び」シーズンII シンカする子ども・先生

学びの改革パイオニア校として、全校で「探究的な学び」の実践の歩みを進めている開智小学校。

10月4日にキッセイ文化ホールで開催された「創立150周年記念式典」では、各学級・学年で進めてきた開智小学校や地域を題材にした学びの成果を堂々と発表、様々な方から温かいフィードバックをいただき、子どもたち、先生たちにとって「探究の学び」の大きな手ごたえを得る機会となりました。

しかし、開智小学校の「探究」の歩みは、ここにとどまりません。10月までの学びの勢いをさらに進め、現在、全校で二期目の学びのサイクルに入っています。

令和6年度 社会的な学習の時間(歴史)



そして11月10日(金)、「開智探究の日」として、2校時から5校時まで3年生以上の全学年が校内外の方々に向け授業を公開する研究会を開催しました。学校全体で取り組んでいる「探究の学び」のあり様を広く開き、様々な方々と子どもや教師の具体的な姿から学び合うことを通して、開智小学校の探究の学びの「現在地」を確かめ「今後の方向」を探りたいという願いから実現しました。

当日の第5時、5年1組「年長さんと交流をしよう」は全校研究授業も兼ねて公開されました。10月に幼稚園の年長組の園児たちとの交流の計画を立て、第1回の交流を終えた子どもたちが「もっと楽しい交流にしたい」という願いをもって2回目の交流会の計画を練り上げる場面です。

#### 相手意識・関係性を深める子どもたち

授業の前半、子どもたちは各グループで活動計画を検討しました。園児の様子を思い描いた発言が多く、豊かな相手意識が感じられます。1回目の交流を通して、子どもたちにとって身近な存在になっていることがわかります。どの子どもも率直に自分の意見を述べながら、具体的な計画をきめ細やかに立てていきました。



授業の後半は、いくつかのグループが交流活動の計画を発表し、学級全体から改善点等の意見を求める時間です。ここでも、子どもたちの豊かな意見交流がありました。「もっと楽しんでもらうために、手加減の具合を考えたらいいと思います。」など、多くの建設的なアドバイスが提案されました。他のグループの計画であっても他人事ではなく、強い当事者意識を子どもたちが持ち合っていることが伝わりました。

#### 子ども観・学力観を深め合う先生たち

開智小の先生方の今サイクルの新たな挑戦は、「子どもの学びを読み取ること」です。子どもの「行為・所作」からその意味を解釈することは、子ども理解にとどまらず、探究の学びで得られる学力への見方を深める、と開智小の先生方は考えています。今回の授業に当たって、先生方は協議グループで注目する子どものグループを決めて参観し、授業後の検討会では、共通して観察した子どもの様子とその解釈を交換し合う研究会のスタイルに挑戦しました。学校外からの参観者も加わって、豊かに子どもの様子やその背景を語り合う学びの場が実現しました。



「探究」の歩みを止めず、経験して振り返ることを通して、見方・考え方、そして関係性がシンカする。それは子どもにとっても、大人にとっても同様に大切な営みであることを、開智小学校の子どもたち、先生たちは教えてくれます。



今年度、開成中学校では、『教師が教える学校』から「生徒が学ぶ学校」へ』を研究テーマに教育活動を展開しています。

## 2 学期は全ての教科で探究的な学びを実践！

1 学期に「全教職員による授業公開」の取り組みを終えた開成中学校は、その成果と課題を共有しました。その上で、夏休みの研修で「問いの大切さ」を確認し、2 学期は各教科で「追究」できる単元を決め出し、「探究」のサイクルが回るように計画を立てました。11 月になり、その取り組みは佳境に入っています。

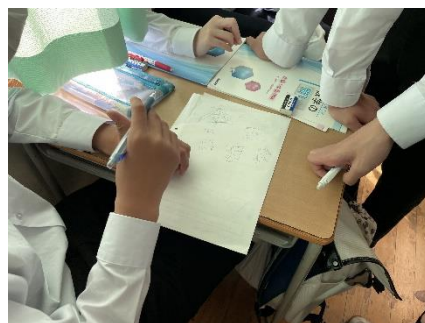
10 月の Web コンテンツでも紹介した社会科の授業では、「京都市内にパリ風の歩道橋をかけるべきかどうか」という学習問題を設定し、生徒に「あり」か「なし」かを問いました。興味関心を引き出された生徒たちは、配布資料によって学びの見通しを持ち、個人追究に入ります。その後グループで意見を交換し、仲間の追究に触れながらグループとしての結論を出しました。



この授業の対象生 A 生は、学習カードの最後に「話し合いをするのが楽しかった」と綴っています。この A 生が感じた楽しさの中身を教師が考えていくことが、開成中学校の探究的な学びがさらに前進していく契機になるのではないかと考え、職員研修の中で授業記録を読みながら A 生の学習の様子を分析しました。参加した先生方も「この子、こういうこと言うよね」「やっぱり、対立軸がはっきりしていると話し合いやすいよね」など今後の授業のヒントとなる考えが多く出てきました。その成果を共有し、その後の実践に活かしていく流れの中で、様々な教科において探究的な学びが展開されています。

## 先生が変われば、生徒が変わる！

その後、11 月に公開された数学の授業でも、上述の社会科の授業のように「問い」を大切にしたら結果、比較的敬遠されがちな証明問題にもかかわらず、エネルギーに学ぼうとする生徒の姿がありました。先生は生徒が挑んでみたくなる「問い」を示し、生徒の様子を見ながら必要な助言をしたり、グループ学習を組んだり、生徒の考えを整理するのみ。生徒は仲間と共に学びながら、時に影響され、時に自分の考えを貫き、証明問題に取り組んでいました。



これまでの一斉指導では、見られなかった生徒の姿。大きく変わった生徒の姿の裏には、大きく変わった先生の姿があります。今年度、開成中が『教師が教える学校』から「生徒が学ぶ学校」へ』を研究テーマに少しずつ少しずつ積み上げてきたものが徐々に実を結びつつあるということでしょう。先生方が変わり、生徒たちが変わり始めた開成中学校。2 学期もあとわずかですが、全教科で探究的な学びの取り組みが続いています。

## お知らせ

★各校の取組み状況を随時松本市教育委員会のホームページでお知らせしています。  
(毎週更新) 右の QR コードからぜひご覧ください。

